
りとりしすた一物語

チビ猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

りとするすたー物語

【Nコード】

N5849G

【作者名】

チビ猫

【あらすじ】

両親が突然交通事故にあって死んでしまい身寄りの無い俺は『四姉妹』が待つ従姉妹の家へと住み込むことになってしまった。

ぶろろーぐ（前書き）

現実では有り得ないような有り得るようなラブコメです。

小説ですのでキャラの髪の色が現実感がないのはあしからず。

ぶろろーぐ

『両親が死ぬ』

これを若い内に経験してしまった人は少なからずいるだろう。

しかし心のどこかでそんな事が起こるはず無い、神様はそんな事しない、と肯定していた自分もいるはずだ。

……ああ良く分かるよ、俺もその一人だったからな。

けれどある日分かるんだ。

『一番性格が悪い奴は運命を左右していた神様だって事がな』

じけん

「お、ジンじゃーなーっ!!」

「おー悠、んじゃまたな!」

その挨拶に答えたのはジンと呼ばれた少年であった。

そんなもって悠ってのは俺の友達。

「今日は予定も無いしアレだな、CDでも借りに行つて……」

いや、前に悠が言つてた面白い漫画でも読むか?

まあまだまだ時間もあるし後で考えればいーか。

P r r r r ……

「電話……?」

珍しいなこんな時間に」

ディスプレイには『お袋』と映し出されていた。

お袋から？
なんかあったのか？

「ん、どーし……」

『ジ……ジン君？
落ち着いて……聞いてくれる？』

こういう時は大体
「落ち着いて」と言っている本人が落ち着いて無いよな。

「なんで琴乃葉さん^{コトノハ}がお袋の電話に？」

琴乃葉さんというのは従姉妹の親。

何回か会った事があるけれど、声だけで分かったのは自分を褒め称えてやりたい。

『じ……実はあなたの両親交通事故に巻き込まれて……』

交通事故？

巻き込まれた？

んなバカな、今朝お袋と親父はピンピンしてたんだぜ？

温泉街までドライブに行く、とか言ってな。

おいおい、温泉街までドライブって日本語的に可笑しいだろ、って俺が突っ込んで。

可笑しくねえよ、って笑いながら言われて。

ん？

ドライブ？

まさかそんな時？

「それ……で？」

どうなったんですか、とまで言葉が出る程俺はメンタル的に強い。

『亡くなった……そうよ』

プープープーッ……

無意識に電源ボタンを押していた。

……数分後、事態を把握出来ずに自宅へ戻ると琴乃葉さんが待っていた。

交通事故の原因は対向車線からトラックが突っ込んできたらしい。

流石の親父達も俺の突っ込みには耐えきれたがトラックのは無理らしい。

当たり前か。

それから数日間訳の分からないままお通夜やら何やらで過ぎていった。

……突然過ぎて泣けないって話しは本当なんだな、確かに泣けない。

ボーッと葬式会場の待合室に居ると軽快なノック音が聞こえた。

「琴乃葉さん……」

「ねえ、いきなりだけどジン君これからどうするつもり？」

本当にいきなりだが確かに大問題ではある。

何故なら俺には文字通り身寄りが無いから。

「しばらくは両親達の保険金や貯金があるので、後はアルバイトで
もしながらやっていこうかと……」

いや、勿論無茶な事だって分かってる。

しよせんはこれ以上琴乃葉さんを心配させたくない事からの強がり
でしかない。

すると琴乃葉さんは今世紀最大確定の爆弾発言を投下してくれた。

「良かったら、もし良かったらなんだけど私の、ウチの子供になら
ない？」

……正直驚いたね。

どうにか驚きを隠そうと繕った表情も意味が無かったらしくこう付け加えられた。

「ジン君が知ってる通り私と夫は海外で仕事してるからあまり日本に帰って来れないの。」

それに最近提案したプロジェクトが良い意味で大反響して、さらに忙しくなったのよ……」

「お……おめでとつございます」

嬉しい表情と悲しい表情を三対五で混ぜたような顔で語り始めた。

「ありがとう。」

それでね、多分後一年は帰って来れないの」

後一年って……

ん……

おいおい、まさか……

言っておくが今日はエイプリルフルじゃないぜ？

「理解しちゃったかな？」

私達が居なくてあの子達も寂しいだろうからその間だけでも良いの！
ジン君家に居てくれないかしら？
勿論その後も私達の子だけど」

やべー、目がマジだよ。

本気で俺を養子にするつもりだ……

「えっ、いやっ確かに可哀想ですけど……
俺がお世話係りって事ですよね？」

俺がここまで渋るのは理由がある。

確かにこれは俺に好都合すぎる程条件が良い。

琴乃葉さんの子供が一人息子、とかだったら話が合って楽しく生活
出来るだろう。

そしたら二つ返事をお願いしてるかもしれない。

でもな、人生そんな甘くないんだよ。

「正解！
だからあの『四姉妹』をお願い！
ね？」

勘弁してくれよ……

ん？

断ったかって？

情けない事に身寄りの無い俺には路頭に迷うかお世話係りの二択しかないんだぜ？

否が応でも後者になっちまうんだよ。

分かるよな？

……この日を境に俺は親父から受け継いだ苗字から『琴乃葉 神』
(コトノハ ジン)へと改名する事となった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5849g/>

りとるしすたー物語

2010年10月9日20時06分発行